

千葉県下における血管撮影業務の現状2011
第1報 血管撮影業務のスタッフ構成と品質管理について
報告者: 笠原哲治

今回、千葉開催ということもあり初めてJSNETに参加しました。学会自体に出席するのはもちろんのこと、ポスター発表という形式も私にとっては初めての経験で、何もわからない状況からのスタートでしたが、共同演者の皆さんの助言もあって無事に発表を終えることができました。

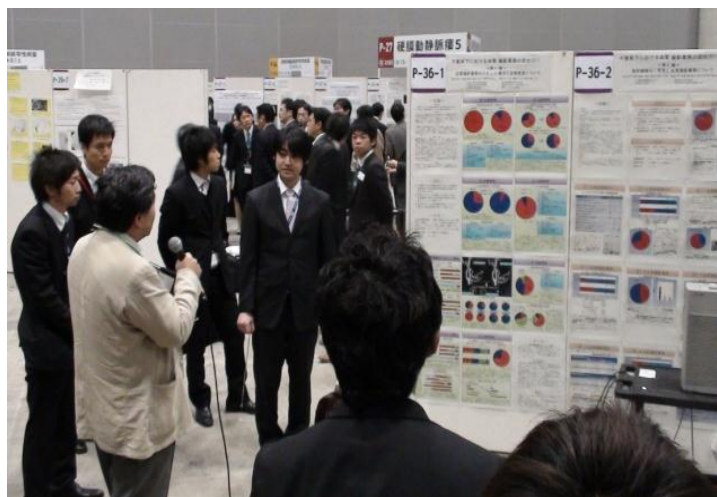
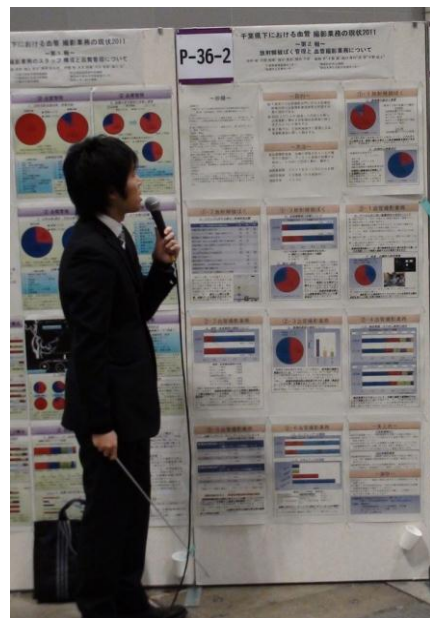
今回の学会では医師の方の講演や発表を多く聞くことができ、大変勉強になりました。このような機会を今後も日常の臨床に生かせるようにしていきたいと思います。

千葉県下における血管撮影業務の現状2011
第2報 放射線被ばく管理と血管撮影業務について
報告者: 世利峻

このアンケート調査では千葉県下の血管撮影業務の現状を千葉アンギオ技術研究会課題研究として報告してきました。また第27回日本脳血管内治療学会・冠疾患学会で報告する事ができ、千葉県での血管撮影の状況を少しではありますが全国に報告できたのではないかと思います。

この調査活動を実施してみて、他施設の状況を把握する事ができたという点がとても大きかったです。特に急変時における対応は施設毎に異なっている事がわかり、施設毎に対応について話し合っておく必要があることがわかりました。また、被ばく軽減活動にも様々な方法があり勉強させられる面がたくさんありました。このようにこの調査では業務に活かせる場面が多数あり今後の血管撮影業務の参考としていきたいと思います。

最後に、今回アンケート調査にご協力いただいた御施設の方々とお礼申し上げます。千葉アンギオ技術研究会幹事の方々にも深くお礼申し上げます。



セッション名: 調査・実態・被ばく
座長: 柴崎亨

今回、縁あって世利、笠原両氏の演題のセッションの座長をさせていただきました。

千葉アン研の課題研究である”千葉県下における血管撮影業務の現状”についての研究成果を世利さん、笠原さんが分担して発表いたしました。

施設により業務内容が大きく異なるのが血管撮影というモダリティの特徴の一つであると思います。他施設での業務形態を参考にすることは、自施設での業務内容を改善する上で非常に有効な手段であると考えています。したがって、各施設での業務内容を客観的に分析したお二人の演題は貴重な資料であると思います。

欲を言えば、業務形態別の事例集の形に昇華出来れば優れたツールになると思いますので、千葉アンギオ技術研究会のバックアップのもと、研究を継続して頂きたいと考えています。

第27回日本脳神経血管内治療学会コメディカル実行委員
梅北英夫

去る11月24日-26日、幕張メッセで開催された第27回日本脳神経血管内治療学会学術総会は、東日本大震災の影響で参加者の減少が危ぶまれていましたが、約1600名の多くの方々に参加され盛会裏に終了致しました。放射線部門も60演題を越え過去最高の演題登録数となり、各演題で活発な討論が繰り広げられと思います。

今総会のテーマとして「evidenceとexperience」と掲げられました。

この言葉は対義語であります。我々放射線部門にも合致するテーマであり、本当の意味で脳血管内治療が低侵襲なものとするためには、医師と技師ともに被ばくに対する認識、被ばく低減技術を含めた被ばく管理が重要であります。そういう意味で、今大会コメディカル部門においては、日本脳神経血管内治療学会へ被ばくガイドラインの必要性を提言され、また学会から御支援と御協力を採りつけたことが最も大きな成果だと思います。

最後に今大会のコメディカル部門において格別の御配慮を賜りました千葉県救急医療センター 小林繁樹大会長をはじめ、千葉県下で御活躍されている多くの脳神経血管内治療医の先生方に厚く御礼申し上げます。